

研究計画書

<b>ゼミ名</b>	合同ゼミ	<b>チーム名</b>	チーム サイバー
<b>タイトル</b>	現金がなくなる?!～これからの日本の決済～		
<b>テーマ群</b>	b) 財政・金融		
<b>メンバー</b>			
<b>研究計画内容</b>	<p>日本銀行「モバイル決済の現状と課題」（2017年6月）によると、新興国や発展途上国の一部では、すでに、主流の決済方法は現金決済ではなく、電子マネーによる決済やモバイル決済へと移行している。例えば中国では、都市部の消費者を対象に行ったアンケート調査によると、過去3か月の間にモバイル決済を「利用した」と回答した者の割合は、調査対象者の実に98.3%に上っている（2016年5月）。他方、日本においては、キャッシュレス化が進んでいるとは言い難く、キャッシュレス決済比率は約2割というのが現状である。これらのことから日本は電子決済の先進国と比べると「現金主義」の国であると言える。</p> <p>しかし日本は、nanacoやICOCAなどのチャージ式ICカードの普及率については世界的に見ても非常に高い水準にある。これらのことから、日本において電子決済によるキャッシュレス化が進んでいないという事実は、電子決済システムそのものに由来する技術的な問題であるというよりは、電子決済システムを利活用する際の有形無形のコストや「現金主義」と呼ばれる人々の選好などに関わる経済問題なのだと考えることができる。</p> <p>このたびの私たちの研究は、「日本におけるキャッシュレス化（現金決済からモバイル決済を軸とした電子決済への移行）を促すインセンティブ・システムの設計」を最終目標としながら、日本における電子決済の普及に関する諸課題とその解決策を示すものである。</p> <p>私たちの研究が明らかにするのは(1) 電子決済が普及しないことの経済的理由ならびにその社会的費用(2) 電子決済の普及が消費を中心とする経済行動に及ぼす効果(3) 電子決済システムを基盤とする新たな金融プラットフォームが市中銀行の決済機能やマクロの金融政策に及ぼす効果 である。そして、訪日外国人の増加やインバウンド需要の拡大までを視野に入れた政策的な取り組みを提案する。</p>		